

南富良野町と北海道ガス株式会社との

連携と協力に関する包括協定について



南富良野町



KITAGAS

令和3年6月11日

1. 南富良野町の概要

■町の特徴

- ・ 人口 : 2,360人 (2021年5月末)
- ・ 世帯数 : 1,325世帯 (同上)
- ・ 面積 : 665.54km²
- ・ 主な産業 農業・林業 : 林業 (町の90%が森林)
馬鈴薯、人参、もち米
- 製造業 : JAふらのポテトチップス工場
- 鉱業 : 石灰石採掘、タンカル肥料等生産
- 観光 : かなやま湖周辺のアウトドア
(ラフティング、カヌー、サイクリング
氷上ワカサギ釣り、カーリング)



- **2016年** 8月末豪雨による洪水災害発生 (町中心部が大規模浸水)
- **2017年** 災害強靱性向上を目指した地域エネルギー供給まちづくり検討開始
- **2020年** 重点道の駅としての道の駅再編整備事業開始

※重点道の駅とは地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取り組みが期待できるもの

2. 地域社会の課題と解決に向けて

1. 人口減少・少子高齢化問題

2. 低炭素化の実現



地域が自然保護を促進しながら持続的発展を実現することが必要

3. 南富良野町の目指す姿

1. 森林や河川などの地域資源の活用

2. エネルギー地産地消の促進

3. 町内地域の活性化

4. 住民生活の質の向上

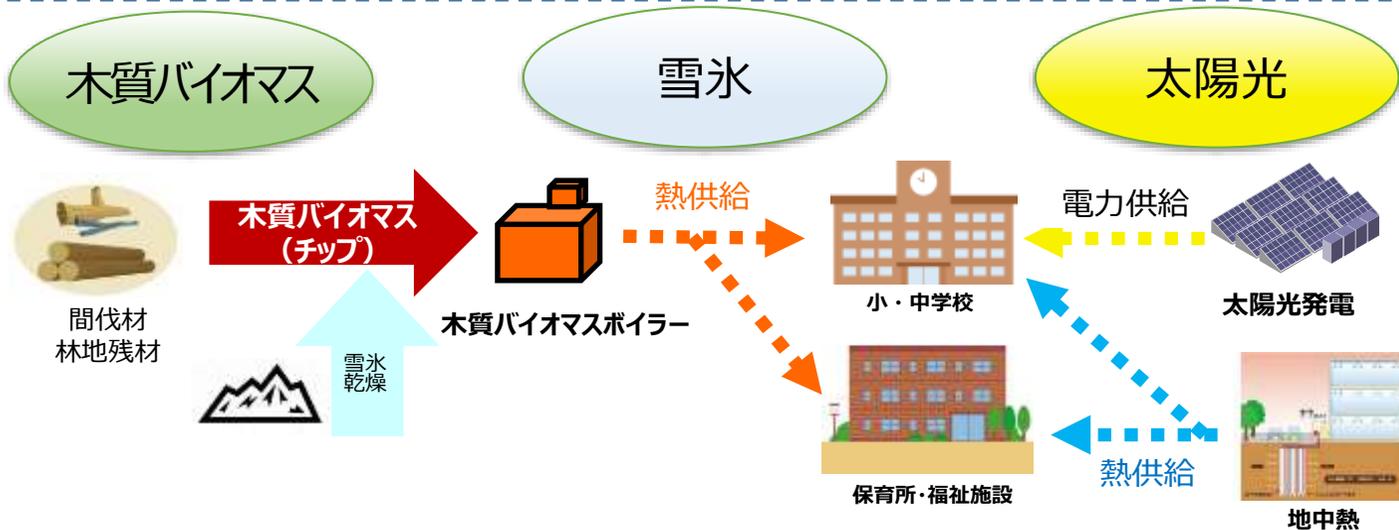
4. 連携協定による取り組み

1. 地域の再生エネルギーを活用したエネルギー地産地消の促進に関すること
2. 森林及び関連する産業の維持発展に関すること
3. 道の駅を中心とした地域の公共施設等の災害強靱性向上に関すること

5. 各連携事項の取り組み方針 ①

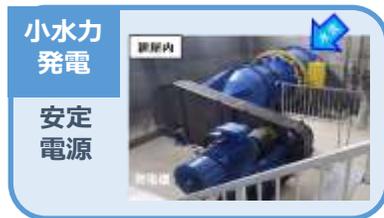
●地域の再生エネルギーを活用したエネルギー地産地消の促進に関すること

南富良野町の
これまでの
取り組み



今後の取り組み (予定)

水力



電力供給

道の駅南ふらの



電力供給



太陽光



太陽光発電

地域に賦存する
再生可能エネルギーの活用

地域の再エネを可能な限り
地域で活用し低炭素化

地域内資金の循環による
地方創生

6. 各連携事項の取り組み方針 ②

●道の駅を中心とした地域の公共施設等の災害強靱性向上に関すること

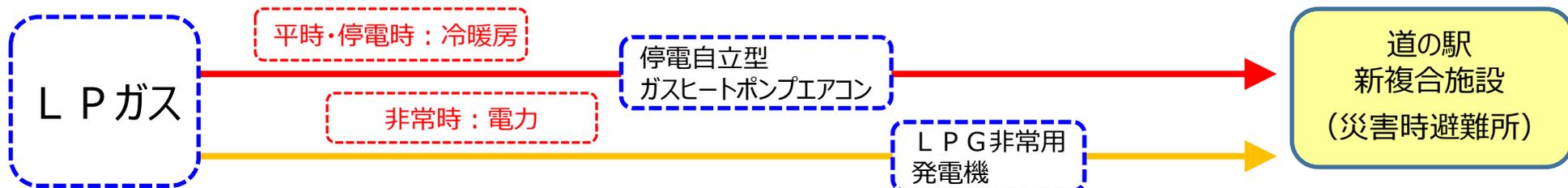
2024年 道の駅南ふらの 全面リニューアルオープン予定

2022年6月末オープン予定
「道の駅南ふらの」の新たな複合施設



○エネルギー利用コンセプト

- ・省エネに配慮
- ・雪害、風水害、地震等による災害時の2週間程度のインフラ途絶を想定、最低限の電力や暖房を確保する。



極寒期においても2週間程度の稼働を可能とし
災害強靱化、防災拠点化を進める。

災害強靱性の向上
(レジリエンス強化)

7. 各連携事項の取り組み方針 ③ - 1

● 森林及び関連する産業の維持発展に関すること

森林の経営継承、地域雇用維持、森林資源の有効活用

民有林振興対策

二酸化炭素の吸収源、水資源の確保、自然災害の防止

かなやま湖水源の森整備

生物多様性の保全、環境教育、エコツーリズム、地域観光資源の維持

イトウを守る森林整備



イトウ
(絶滅危惧種)



ヒグマ



オオワシ



ラフティング

森林施業の維持発展、継続的に大量のCO₂を吸収

**CO₂ 排出削減の取り組み拡大
南富良野町のCO₂ マイナス化の促進**

低炭素化社会実現の促進

地域のブランド力の向上

**様々な分野における
まちづくりに寄与**

森林の持つ多面的機能の維持

8. 各連携事項の取り組み方針 ③-2

● 森林及び関連する産業の維持発展に関すること

北海道ガス(株)が南富良野町内に森林の保有を計画

経営継承、健全な森林経営が課題の
民有林等を保有予定

保有計画林
かなやま湖隣接林 (約140haを予定)

期待効果

南富良野町

信頼を持った森林経営継承

健全な森林経営の維持

雇用維持

水資源の確保

自然災害の防止

生物多様性の保全

地域観光資源の維持

北海道ガス

森林が持つ役割の維持に貢献

企業価値の向上

地域資源を活用した持続的な
地域社会の発展に貢献

C S R 活動を通じた北海道の
自然環境保全へ貢献

森林のCO2吸収価値の活用
(カーボンニュートラルへの活用)

